

Vol.50 Premium 2024

ウェルビーイング体感マガジン 健康PLUS

HEALTH PLUS

Lifestyle Well-Being Magazine

Well-Being INTERVIEW

持続可能でウェルビーイングな未来をひらく
食文化のクリエイターとして

テーブル・ドール代表取締役、
料理家、フードコンサルタント

三好万記子 さん

薬草百話
初夏の健康管理に活躍する
古き良き薬草「蓮」と「ホウノキ」

こころも体も躍る、
フランス香る暮らし

かたわらの活動について雑誌に連載記事を書いています。
連載部分だけを抜粋した"かたわらバージョン"です。

2024年6月1日発行 HEALTHPLUS50号掲載
"Cut a wall out!" 特別編集抜粋版

かたわら

編集協力: MarieDaviWorks



誰かを幸せにする Well-Being

Cut a wall out!

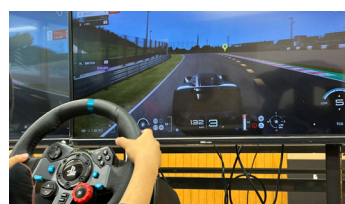
改めて、継続することの大切さ

おかげさまで、この号が出版される頃には活動が本格化して1年がたちます。その間、様々な方に助けていただき、新しい出会いもあり、かたわらの活動を続けることができました。今後も引き続き、より良い活動が出来るように頑張ります。今回は、10年後の「かたわら」が目指す理想についてです。

さて、かねてから「継続」が大切であると発信しておりますが、社会貢献事業を継続している皆様を見ると頭が下がります。継続するには組織化することが必須であり、組織化をするためには人材も資金も必要になります。活動を始めた本人に万が一のことがあったとき、そこで活動が終わり、とならないようにも組織を作り、活動を引き継いでくれる仕組みが必要です。そうなる、「どのような形態で組織化をするのか？」という事を考えるようになります。

理念と打算、そして理念へ帰る

ボランティアを主体にする団体の組織作



1年がたち、子どもたちも慣れ親しんでくれています。レースゲームだけでなく、お絵かき、折り紙、ラジコンなども持ち込んで、楽しい時間を過ごします。

りについて、セミナーなどに出て勉強してきました。そこで、学術研究の結果などからNPO法人では寄付金が集まりにくい、ということ学び、やはり一般社団法人などの形態が適しているのでは？という考えを持つに至りました。しばらくして、偶然ですが認定NPO法人を運営する先輩からお仕事上での相談を受ける機会がありました。せっかくなので「かたわら」の活動について相談したところ、

「豊田くんは、この活動をどうしていきたいの？せっかく社会に対して良いことをしているのなら、資金の集まりやすい、集まりにくいといった事に影響されるのではなく、理念に従って組織作りすべきなのは？認定NPO法人の認定を取得するのは本当に大変だけど、その価値はあるよ。」

と、アドバイスをいただいたのです。確かに、継続することを考えすぎ、どうやってたくさんの方に関わっていただけるのか、資金をどうやって集めるのか、ということに意識がいきすぎていました。e-sports に使う設備も壊れたら修理が必要ですし、備品も補充しないといけません。台数も増やしたいですし、運搬の車、保管場所などコストのかかることはいくらでもあります。ボランティアの方にも、せめて交通費ぐらいお渡ししたり、お食事の用意をしたり、最低限のホスピタリティは確保したいところです。そういったプレッシャーに押されるように、打算的に組織の方向性を考えてしまっていました。

しかし、この時いただいたアドバイスを何度も繰り返し自問自答した結果、やはり本当に理念を実現できるのは認定NPO法人だと思に至ることができました。認定をとるのは大変だから、と逃げるような態度で別の組織形態を選ぶのは本末転倒ですね。

同時に、当初から自分でも確認しているのは、「自分が本当に好きだからやっている。車や車のレースが好きだから、子どもたちと一緒に車で遊びたい」という方向性をぶらさな

いように、あくまで楽しんで活動しようという事です。無理をしすぎないのも継続の要かと思えます。

継続のその先にあるもの

冒頭で10年後のお話をしましたが、先輩からいただいたアドバイスを元に自問自答しているとき、以前から漠然と思っていたことがハッキリとした形になりました。それは、10年後、かたわらがもう少しだけ大きな組織になっていて、数人はスタッフを雇用できる様になっていることです。そし



43型の大きなモニターとハンドル、シート、ブレーキでゲームセンターの様楽しめます。昔と違って、今はSwitchなど携帯ゲーム機も発展しましたが、このようにリアルなシミュレーターを体験してもらうことで、特別な時間と感じてもらっています。手前は観戦用ですが、コントローラでの操作も可能なので、3人同時に走れます。

て、「かたわら」の活動を経験した子どもたちが、「自分も後輩に同じ事をしてあげよう」と思い立ち、「かたわら」に参加してくれるようになったら素晴らしい、と。ちゃんとお給料が出る仕事として成立している、養護施設で暮らしている子どもたちの気持ちに誰よりも分かる彼ら彼女らが、さらにその次の世代に何かしらの繋がりを送っていく。最終的にはかたわらの代表者が引き継がれていく。これを目標に、さらなる継続のための組織化を進めよう、という結論になりました。そのためには、認定NPO法人という器はぴったりです。そして、今年はその前段階である通常のNPO法人の設立を目指して進めていきます。

協力者のハート・気持ち

子どもの頃に読んだレース漫画の台詞です。「マシンはガソリンをすいこんで走る。おれたちは心（ハート）をすいこんで走る。協力者のな……」（新谷薫・ふたり鷹）これは今でも常に思い出します。例えば、小学生の頃からずっと車やバイク、レースが好きなことは変わっていないのでした。



写真提供：フォーミュラ Enjoy 協会



「かたわら」公式
<https://katawara.fun/>

豊田 佳明 (とよたよしあき)

自動車 / モータースポーツを通じて、こどもたちのかたわらに立ち続ける活動「かたわら」の代表。ベンチャー企業、その後1部上場企業でITエンジニアとして過ごし、中小と大企業の醍醐味を勉強する。独立後は映像制作を生業とし、元ネットワークエンジニアの強みを活かしネット上でのライブ配信も得意とする。ウェルビーイングを実現するための活動を続けながら、三重県鈴鹿市のK&Gレーシング様にて、Formula Enjoyレース出場に向けて目下練習中。

かたわらも、私の一人よがりでは走れません。協力してくださる皆さんのアドバイスを聞きしたり、皆さんの力をお借りして初めて走ることが出来ます。NPO法人が設立できたら、協力会員の募集が始まり、皆さんから具体的に力をお借りしていく段階に移ります。是非とも、一緒に走ってください。そして、未来の子どもたちのそのまた未来を照らす、ほんの少しの灯りになることが出来れば、こんなに嬉しい事はありません。公式ホームページにて随時発信をしておりますので、こちらもご覧ください。あなたの気持ちを、子どもたちにしっかりと届けます。



<https://katawara.fun>



概要

「かたわら」は、小さな手がハンドルを握る瞬間に、世界が広がる奇跡を信じています。私たちは、児童養護施設の子どもたちに、モータースポーツを通じて無限の可能性を感じてもらおうためのプロジェクトです。子どもたちに贈るのは、ただのゲームではなく、人生のレースを乗り越える勇気と喜びの時間です。

疾風のように駆け抜ける子どもたちの笑顔が、私たち「かたわら」の原動力です。児童養護施設での毎月の集まりは、ただの遊びではありません。それは、心の扉を開く鍵となる貴重な時間です。一緒に、子どもたちの心に共鳴する冒険を始めませんか？

目を輝かせる子どもたちが、一斉に画面に集まり、レースの世界に飛び込んでいくその瞬間を想像してみてください。

私たち「かたわら」の活動は、そんな心躍る体験を、児童養護施設の子どもたちに毎月届けています。この小さなイベントが、彼らの日常に色を加え、新しい夢を描くきっかけになることを願っています。

世の中には、こんなにも心を弾ませる瞬間があるんだと、子どもたちに実感してもらいたいです。そして、彼らが自分自身という存在を、この世界で確かなものとして受け入れる手助けができれば、それは、私たちにとって最も大きな報酬になります。

スタッフ募集

「かたわら」では、子どもたちの心に光を灯す活動を一緒に創り上げる仲間を探しています。

あなたの温かい手が、子どもたちの未来に希望の光となります。共に、彼らの生きる力を育む事業に参加しませんか？



寄付のお願い

一人ひとりの支援が、子どもたちの未来のページを明るく照らします。ご寄付は、ただの支援ではありません。それは、子どもたちが自分の道を見つけ、歩んでいくための、愛と信頼の証です。私たち「かたわら」と共に、子どもたちに新しい希望の章を開くお手伝いをしていただけませんか？詳しい方法はホームページをご覧ください。また、以下のQRコードからもご寄付いただけます。ご寄付をいただいた方には、定期的に活動報告のニュースレターをお送りいたします。



公式 WEB



500円寄付する